

防災教育の一環として、令和6年3月11日（月）に市内小・中学校に防災給食を提供しました。（実施校は給食センター配食校の小学校6校、中学校4校）

《 小学校献立 》



- ・救給カレー
- ・牛乳
- ・クイツティオサラダ
- ・はちみつレモンゼリー



《 中学校献立 》



- ・救給カレー
- ・ナン
- ・牛乳
- ・クイツティオサラダ
- ・はちみつレモンゼリー

防災給食につきましては、摂取エネルギーを考慮し、通常献立の一部を防災食（救給カレー）に変えて実施しました。防災給食を実施することで、災害時の普段とは異なる状況で食べたことがないもの、初めて食べるものしかないという不安を軽減することを目的としています。実際にはまったく違う種類の非常食が新たに提供される可能性もありますが、前もって雰囲気を経験しておけると、もしもの時のストレスが少しでも軽減されます。また、備蓄食品を実際に食べる体験を通して、未来を担う児童生徒が「生き抜く力」「災害への備え」について考える機会とし、災害への備えの大切さを知り、日頃の食事への感謝の心を育むことも目的としています。

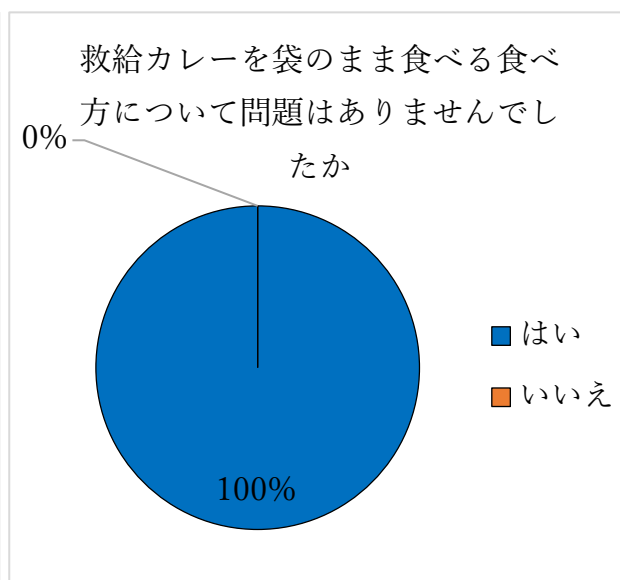
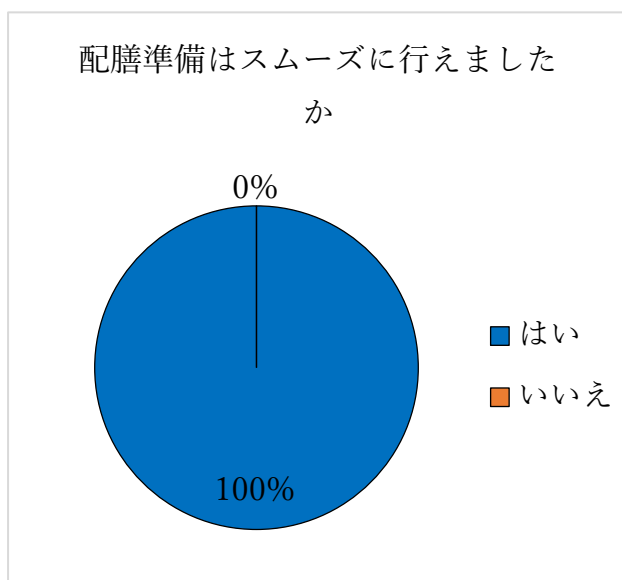
★ 当日の様子



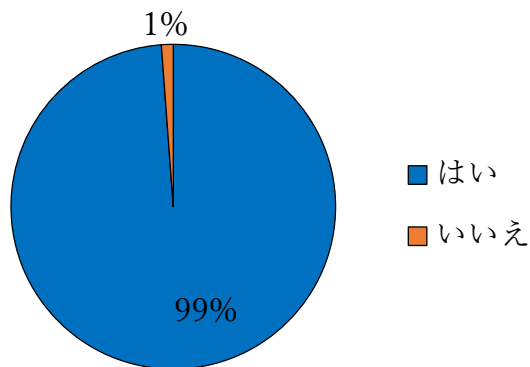


木更津第一小学校 1年生～3年生 教室にて(写真一部加工有り)

★ 事後アンケートより(教職員)170名回答



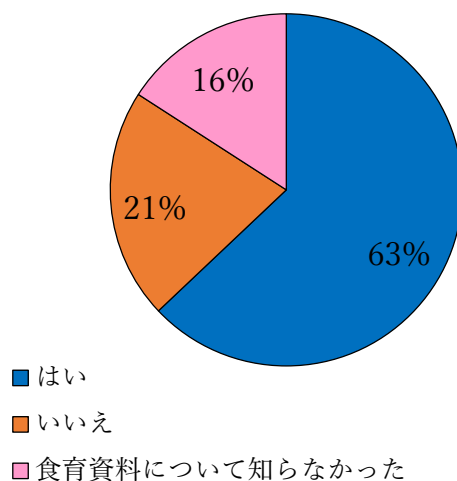
スムーズに片づけることはできましたか



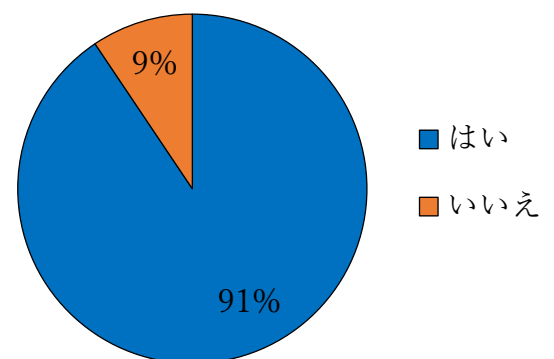
●スムーズに片づけることができなかったと回答した理由

- ・ゴミ袋が小さかったため。
- ・食べ終わったカレーの袋をたたまずに、ゴミ袋に入れる児童が多かった。事前指導が必要だと思いました。

給食センターで作成した食育指導資料を活用しましたか



防災給食が提供されることに合わせて、災害のことについて指導を行うことはできましたか



○ 給食センターで作成した食育指導資料の活用方法（一部抜粋）

- ・各クラス電子黒板や、紙ベースでの掲示、昼の校内放送で知らせた
- ・給食前に全体で食べ方を確認。なぜ、3月11日が防災給食なのかを話した。東日本大震災の動画を視聴し、各家庭で災害時どのようなものを食べるかなどを話した
- ・授業形式の中で紹介した
- ・電子黒板に提示と、掲載されてから、学級のクラスルームにも貼り付けて児童が見れるようにした
- ・防災給食の配膳等の情報を、教職員が把握できるように資料を配付して情報共有を図った

○その他、お気づきの点がありましたらご記入ください（一部抜粋）

・3月11日に行くことには意味があったと思います。子どもたちも「なぜ今日、救給カレーが出ているか」と聞くと、「東日本大震災があったから」と答えた児童がほとんどでした。もし災害が起きたらこのような食事を取ることや今も能登半島地震で被災した方々は、このような食事を取っていることなどを、災害のことを考えさせるきっかけになったので、防災給食を提供したことは良かったと思います。今後も続けて欲しいです。



- ・どの年代の方でも食べられると感じた。ナンとの組み合わせはどうか。ナンは美味しかった。スプーンはプラごみで処理出来なかったのか。自分の学校だけで 500 本の廃棄になった。給食だからいつものスプーンでよかったのでは？
- ・災害を知らない児童が増えていくので、ただの話だけでは伝わらないことが、給食で体験できることによって当時の大変さを考える良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・白米しか食べられない児童がいたが、災害時はこのような場合もあるということの話をした。今日は、おかずやデザートも出たが、普段からありがたく感謝しなければいけないことを伝えることができた。こういう機会は大事だと感じた。
- ・非常時体験をイメージするには有効化とも考えますが、食べ盛りの児童にとっては量的に少なかった。
- ・量が足りないと言う児童が多かったが、実際、こう言う食事を被災地の方は食べているし、自分たちも食べる日が来るかもしれない。と指導しました。



令和 6 年度からは、給食センターで約 6,000 食の「救給カレー」を備蓄する予定です。災害への備えとともに、料理が提供できなくなった時に備えて非常食としての活用を考えています。毎年、3月11日近辺での使用を予定しており、古い保存食を消費して新たな保存食を備えるというローリングストックが自然な流れで出来るように考えています。

